第１８回宇宙民生利用部会　議事要旨

１．日時：平成２９年１１月９日（木）　１３：３０－１５：００

２．場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

３．出席者
（１）委員
中須賀部会長、白坂部会長代理、石田委員、岩崎委員、遠藤（典）委員、柴崎委員、仁藤委員、山川委員
（２）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）
髙田事務局長、佐伯審議官、髙倉参事官、行松参事官、山口参事官、佐藤参事官、滝澤参事官
（３）陪席者
国土交通省　国土政策局　国土情報課　中島室長
国土交通省　国土地理院　企画部　地理空間情報企画室 石関室長
内閣官房　国土強靭化推進室　大脇企画官

４．議事要旨
（１）宇宙民生利用に関する工程表改訂について
事務局から資料１に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、〇意見）

〇国際シンポジウムでの海外の地理行政の関係者の説明に準天頂衛星が盛り込まれていない場合もあるので、海外に向けて準天頂衛星の認知度向上を図っていくべき。

〇モデル実証事業の結果、何が起こるのか見えにくいので、マーケット獲得など具体的な目標を設定してみてはどうか。

〇モデル実証事業についてはフォローアップも必要になるので、３０年度以降の取組として盛り込んでいただきたい。

〇工程表５２番において、色々な省庁で利用拡大を図っていくための仕組みなど考えられないか。

（２）宇宙データ利用促進について
・パスコから資料２に基づき、説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、〇意見・質問等、●回答）

〇ソリューションビジネス提供するに当たってはＩＴ技術者が重要となるが、人材をどのように確保しているのか。
●人材確保には苦労している状況だが、航空画像の解析人材と宇宙人材を組み合わせて工夫している。

〇全分野のソリューション提供する人材を社内に揃えるのは難しいが、今後どのような戦略を考えているのか。

●他分野と連携していくとともに、社内にある衛星画像を活用しきれていなかった面もあるので解決していきたい。

○利用分野の種類を増やしていくのが重要なのか、既にある利用分野の利用率を向上させるのか、現時点ではどちらが良いのか。
●後者の方が重要と考えており、既存サービスのユーザを増やす努力をしている。

・住友林業及びＮＥＣから資料３に基づき、説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○火災の監視はどのくらいの頻度が求められるのか。
●頻度は短ければ短いほど良いが、可能であれば１～２時間が望ましい。現時点では数日に一回しか確認できないので、目標としては一日に一回を目指している。

○産総研のアルゴリズムはどのくらいの精度で検証できるのか。ビジネスとしてどの程度の売上見込みがあるのか。
●国内の実証では焚火程度を見つけることができたという実績がある。ビジネスモデルは今後の課題である。

（３）その他
事務局より資料４に基づき衛星リモセン法における装置・記録に係る基準等と衛星リモートセンシングデータの利活用の推進に関する基本的考え方（案）について説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、○意見）

○国際展開も重要となるので、留学生なども含めて人材育成する視点も必要である。

○データ処理ソフトウェアを作成する人材育成の観点も重要となる。この観点では、小中学生段階からの教育もできないか。

以　上